

# 消費データをすぐに分析して 経済動向を細かくすばやく把握する

## ビッグデータ 東大日次物価指数 活用例 毎日の物価動向を見える化する

**データ収集** **全国のスーパーマーケットのPOSデータ**  
 全国約300店舗のスーパーマーケットから収集したPOSデータを使用。対象商品は食品（生鮮食品は対象外）、飲料、家庭用品など20万点以上。

**データ分析** **全データをすぐに分析**  
**高い精度の指数** 対象としている商品すべての販売価格、数量を分析対象とすることで、高い精度で売れ筋商品が把握できる。  
**毎日、情報提供** 購買が行われた翌々日までにデータを収集・分析し、物価指数を毎日発表する。

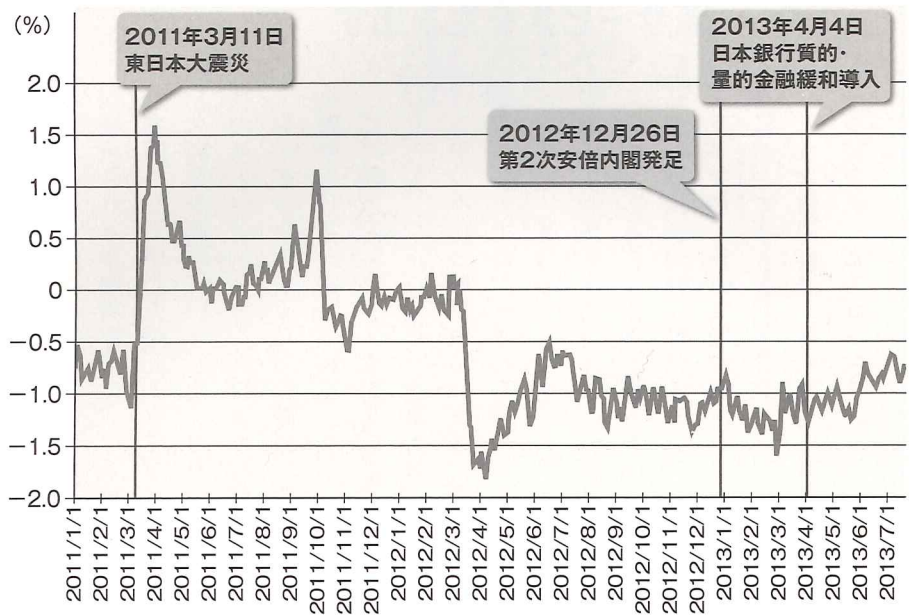
- 新しい価値**
- 景気、為替レート、気候などの物価への影響が正確に・すぐにわかる
  - 経済政策の効果や危険度をモニターできる
  - 製品の価格決定の材料にできる

私たちは毎日、何かしら消費しています。その時に必要な支出は、ものの値段の変動に従って変わります。この比率を表したのが、1か月に1回、総務省が発表する「消費者物価指数」です。  
 「経済の体温計」と呼ばれる消費者物価指数がより迅速に公表されれば、物価の「健康管理」に役立つはず。そこで、全国のスーパーのPOSデータ（P19参照）を毎日集計し、生活実態に即した指数を発表しているのが「東大日次物価指数」です。物価が翌々日に反映されるので、ものの価値の変動が実感できます。

\*Tポイント:共通ポイントサービス(P48参照)の1つ。

東大日次物価指数は、スーパーのPOSデータをもとに毎日公表される。月1回総務省統計局が作成・公表する消費者物価指数（CPI）に比べ、公表までのタイムラグが短い。

### 東日本大震災前後の物価指数の変化



出典:「東大日次物価指数プロジェクト」ホームページ

東日本大震災発生直前、東大物価指数はマイナス0.7%程度のデフレの状態。地震の発生後は、ミネラルウォーターや食料の需要が急速に高まり、指数は約1.5%に急上昇した。



### スマホで店舗の棚を撮影。 リアルタイムで物価がわかる

アメリカのプレミスは、アメリカやインド、ナイジェリア、中国など世界30か国、約200市町村のスタッフがスマホで撮影した店舗の商品棚の写真と、ネット店舗の価格からリアルタイムに物価データを更新。企業や投資家に利用されるほか、インフレ発生予測や食品価格急騰の察知も可能になっている。

この指数を、Tポイントと連携させる取り組みも開始。会員の性別や年齢とリンクさせた物価変動の指数は、データに新たな価値を付与します。